

# 大学院ニュースレター

## 久留米大学大学院医学研究科

第 67 号 / 2013 年 6 月 21 日発行

編集 / 医学研究科長

### 『大学院医学研究科長に就任して ～「知の拠点」としての大学院～』

大学院医学研究科 科長  
感染医学講座（基礎感染医学部門）教授 桑野 剛一

野口正人前大学院医学研究科長を引き継ぎまして、このたび平成 25 年 4 月より研究科長に就任いたしました感染医学講座の桑野剛一です。就任にあたりご挨拶申し上げます。あらためてここで申し上げるまでもなく、大学は昨年度、文部科学省が提唱したように「知の拠点」であり、医学部においては各講座が「知の拠点」であることに異論はないでしょう。また、大学院医学研究科のそれぞれの院生は各講座（あるいは部門）の「知の拠点」を底辺で支える力であり、そして将来の「知の拠点」の中心的な人材と考えます。このように、潜在性を秘めた若い力である大学院生の教育の責任者たる研究科長の責務の重さに身が引き締まる思いです。

さて、野口前研究科長は、過去 6 年間にわたり大学院教育の実質化等に取り組み、研究室で大学院生が必要とする知識・技術等の教育の充実化にご尽力され、大学院教育の基盤整備をされました。今後、私は関係各部門からの要請に答えながら、さらに実効性のある大学院教育の充実・発展を推し進める所存です。また、文部科学省の第 2 次大学院教育振興施策要綱に掲げられた課題、即ち国際的に認められる大学院教育の質を確保すること。また、国際競争力のある教育研究拠点の創成等も今後の課題と考えます。いわゆる世界に通用する教育・研究の創成の課題です。これは短期間には

クリアすることは困難かもしれません、時間をかけて取り組みたいと思います。さらに、喫緊の検討課題としては、大学院学生数の減少への対応策、またつい先だって公表された久留米大学の基本構想策定会議の答申項目の中で、大学院に関わる課題として、大学院生命科学研究科修士課程（仮称）の新設の提案があります。これらの課題についても、まずは大学院医学小委員会で検討を始める予定です。

ところで、文部科学省が今年の 4 月に提唱した「大学改革実行プラン」をご存知でしょうか。これは、日本が直面する少子高齢化社会、東日本大震災等の課題を解決するためには、社会の変革を担う人材育成、および知的基盤の形成が必須であると捉えており、その目標を達成するためには、上述の「知の拠点」として大学の役割に大きな期待をしています。そこで、国主導で「大学改革実行プラン」を推し進め、大学には「社会の変革エンジン」たる役目を担うことを要請しています。ここでは紙面の都合上、「大学改革実行プラン」の詳細については言及致しませんが、本医学部の各部門の「知の拠点」がその能力を十分に発揮し、その成果を統合化すれば、本学は「社会の変革エンジン」として、医学・医療の分野に改革をもたらし、社会に大きく貢献できるものと強く信じます。是非とも本学が「社会の変革エンジン」たることを目指し、そ

して、その「変革エンジン」を回すセルモーターの役割を大学院医学研究科が果たすべきではないかと考えます。

最後ではございますが、上述のような大

学院医学研究科の目標達成、および「知の拠点」としての久留米大学のますますの発展のため、各関係の皆様方のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

## 『これもまた人生』

久留米大学医療センター小児科学講座教授

伊藤 雄平

おそらく最初で最後の「大学院ニュースレター」だろう…と思う。書く本人が大学院の経験がないのだから当然かもしれない。

原稿依頼の編集者から過去何回かのニュースレターを送って頂いたが、それぞれの先生の個性が表れていて、思わずみな読んでしまった。どのような文章でも、書き手の“何かしら”が現れるものだ。さて、私の文章は…？ただ、退任近いので昔話になるのは許してほしい。

大学院を経験するつもりがなかった私の研究生活はいきなりやってきた。当時、入局して臨床医4年目で出張病院に勤務している頃、“留学がしたくて、アメリカで勉強がしたくて”たまたま、当時の助教授（現 加藤裕久名誉教授）の先生のご自宅まで押し掛けて相談した。久留米大学の小児科に入局したのも、久留米大学以外で勉強する機会がありそうな自由な雰囲気にあふれていたことが一因であったと今になって思い当たる。その効果か、教授（現 山下文雄名誉教授）から、今まで久留米大学小児科から留学した事の無いアメリカの施設に行くように指示された。文字通り“指示”である。当時、小児科に確立しつつあった subspeciality のなかで、自分の進むべき方向は決めていたが、入局4年目では留学先の研究状況はわからない。今から考えると冷や汗もの、それも連続冷や汗である。臨床を3年しか経験してない、ピペットを持った事もない、英語も通じない若者が、リサーチをしたくって、したくってアメリカに渡った。どうしてその時にそれほどまでにアメリ

カでの研究生生活を目指したのか今となつては自分のルーツをたどることが困難な年月が経過してしまった。しかし、今考えてもすごいエネルギー、いや自身のマグマであった。

さて、行ってみると臨床部門のリサーチフェローというポジションであった。教授とマンツーマンでじっくりと研究計画について話し合い、データーについてまた話し合い、実験を中止し1週間以上準備した Journal Club では徹底的にたたかれ、と圧倒的な時間的余裕のなかで研究生生活が形作られていった。彼の地での人的、時間的環境は素晴らしかった。日本の小児科と時計の針のスピードが違ふと感じた。要は、「研究生生活の結果を考えずに進んでしまった」人生もあるという事を若者に伝えたいのである。研究をするのは自分であって他人ではない。自らの疑問を自ら解き明かすモチベーションがあつて成立する世界である。そのモチベーションはどのようにしたら持てるのかは言わない。これこそ個人差があるが、点火作業は自分であり、良い環境に恵まれるかどうかには幸運がいる。幸いにも私は小児科で、そして留学先で卓越したメンターに出会った。振り返って、優れたメンターであるとはとても自己評価できない私に出来る事は、モチベーションの高い若い医師、研究者の才能、努力をつぶさないように環境を作ることであろうと自分自身を叱咤激励してきた。来し道を振り返って、研究生生活では臨床、基礎を問わず、指導するメンターの役割もまた大きいと感じる退任間近のこの頃である。

**事務通信****◆博士課程の皆様へ◆****平成25年度 博士課程共通科目レポート提出期限について**

博士課程共通科目を履修された方、前期レポートの提出期限が迫っています。  
提出先・レポート課題をご確認のうえ、所定の期日までにご提出ください。

**「ゲノムドラフトの解明」レポート**

(科目責任者：古賀教授)

課題：2題

書式及び量：レポート1 図表を用いながら2000字以内  
レポート2 A4 2～3枚程度

提出期限：7月31日(水) 18時

提出先：小児科医局(担当：村上氏)

**「遺伝子多型(SNPs)」レポート**

(科目責任者：神田教授)

課題：Genome Wide Association Study (GWAS)について

書式及び量：A4 2～3枚

提出期限：6月28日(金) 17時

提出先：医学部事務部教務課窓口

**「ゲノム創薬の進歩」レポート**

(科目責任者：児島教授)

課題：『ここ数年内に実用化された抗体医薬品について解説してください(医薬品1つについて)。』

書式及び量：A4 4～5枚以内

提出期限：7月31日(水)

提出先：医学部事務部教務課窓口

**「臨床・基礎研究と生命倫理(コンサルテーション)」レポート**

(科目責任者：嘉村教授)

課題：4題

提出期限(レポート2)：7月31日(水) 18時

提出先：小児科医局(担当：村上氏)

\*\*\*\*\*

**◆健康診断未受診者の方へ◆**

医学部B棟1階保健室にて実施しておりました健康診断はお済みでしょうか？  
やむを得ない理由で受診できなかった場合は、これに代わる証明書を7月5日(金)までに必ず保健室(健康・スポーツ科学センター旭町分室)へ提出してください。  
特に、働きながら大学院に来ている社会人入学の方は、職場で健康診断が行われていますので、その結果のコピーを保健室までご提出下さい。



## ◆現住所調査票未提出の方へ◆

修士課程・博士課程全大学院生の皆様へ「現住所調査票」を配布しております。未提出の方は、7月13日(土)までに医学部事務部教務課へご送付ください。ご協力よろしく申し上げます。※以後現住所の変更がある場合は「学生現住所変更届」の提出が必要です(大学院HPよりダウンロード可)。

## 平成25年度 大学院セミナーシリーズ(特別講義) カリキュラム(前期)のお知らせ

担当講座	講義日時	会場	講演者	講義テーマ
皮膚科学	7月1日(月) 17:00-18:30	臨床研究棟2階 カンファレンス室	Sook Jung Yun (Department of Dermatology Chonnam National University Medical School・准教授)	Genetic and molecular study of malignant melanomas in Korea
健康スポーツ科学 センター	9月5日(木) 17:00-18:30	教育1号館5階 1501教室	折口 秀樹 先生 (九州厚生年金病院・内科部長 (老年病担当))	心血管治療としての心臓 リハビリテーション
臨床検査部	9月19日(木) 18:00-19:30	教育1号館5階 1501教室	飯島 尋子 先生 (兵庫医科大学超音波センター 内科学肝胆膵科・教授)	「肝を中心とした消化器超 音波診断について」(仮)
病院病理部	9月24日(火) 19:00-20:30	病院本館2階会議室 (1)	伊藤 智雄 先生 (神戸大学医学部附属病院 病理部・教授)	免疫染色の精度管理
皮膚科学	9月26日(木) 18:00-19:30	臨床研究棟2階 カンファレンス室	Miroslav Blimberg (NewYork University Langone Medical Center/Ph.D.)	Skinomics, the story of EGF and antagonists

9月までの確定分をお知らせしております。日時・場所等に変更があったものにつきましては、確認でき次第、大学院医学研究科ホームページでお知らせいたします。また、当該科目履修者は5回以上のセミナー出席およびレポートの提出をお願いいたします。

レポートについては、各セミナー終了後1週間以内に、医学部事務部教務課までご提出ください。

\*\*\*\*\*

## 編集後記

25年度がスタートして早くも3ヶ月が過ぎようとしています。学生生活いかがお過ごしでしょうか。本年度は15コマの大学院特別講義を予定し、社会で活躍中の国内外の優れた講師の先生をお招きしております。履修登録されていない方も自由聴講が可能ですので、梅雨のこの時期に学識を高める機会とされてはいかがでしょうか。

多数の聴講をお待ちしております。(瀧)

